

## 新潟市スポーツ推進計画

## 第 2 次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画

## 〈平成 3 0 年度実施事業〉

## 進行管理調書

## — 目次 —

1	健康スポーツ・・・P1～2	スポーツ振興課	/	P3～4	関係課
2	競技スポーツ・・・P5～6	スポーツ振興課			
3	みるスポーツ・・・P7～8	スポーツ振興課			
4	支えるスポーツ・・・P9～10	スポーツ振興課	/	P11～12	関係課
5	スポーツ情報ネットワーク スポーツ医科学支援体制・・・P13	スポーツ振興課			
6	区ビジョンまちづくり計画・・・			P14～18	各区
7	指定管理者自主事業等・・・			P19～31	各指定管理者

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成  
B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った  
D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	新潟シティマラソン	平成29年度より開催日を体育の日に移し、デンカビッグスワンスタジアム前発～市陸上競技場着の新たなコースに変更、制限時間も延長(5→7時間)するなど大幅リニューアルを行った。 平成30年度は、10月8日(月・祝)に開催。日本陸連公認コースのマラソン(42.195km)とファンラン(11.0km)の2種目を設定、マラソン8,270人、ファンラン3,735人のエントリーを得た。	エントリー者数 12,000人	エントリー者数 12,005人 市内:6,954人 県内:2,528人 県外:2,523人 (うち国外:85人)	B	前年度(12,957人)に比べエントリー者数は減ることとなったが、目標は達成することができた。	1	本大会の開催日前後には多くの大規模大会開催が予定されており、今後参加者の確保が重要となる。 大会リニューアル前最大の強みであった3連休中日での開催を実現させ、制限時間7時間と合わせ参加しやすい大会であることを積極的にアピールし参加者獲得を目指す。	3	PRのための取り組みをより充実させ、さらに盛り上がりを見せられるとよりよくなる。 開催による経済効果を前面に出すのもよいのでは。
2	少年少女スポーツ大会	児童の健全育成や親睦、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、昭和40年より開催している。 平成30年7月14日～8月12日 種目:野球・サッカー・ミニバス・バレー 参加チーム総数:316チーム	エントリーチーム数 野球:75チーム サッカー:81チーム ミニバス:144チーム バレー:27チーム	エントリーチーム数 野球:71チーム サッカー:78チーム ミニバス:139チーム バレー:28チーム	C	少子化などの影響と思われるがその年により参加チーム数に変動はあるもの、概ね例年通りのチーム数を維持しており、夏に行う大会として定着し、次代を担う青少年の心身の健全育成を図る大会となっている。	2	今後も参加チーム数を維持していくため、実行委員会と連携を図りながら、親しむ・楽しめる大会となるよう実施していく。	2	少子化の影響などもあるが、今後も熱中症などへの対策を講じながら開催してほしい。
3	早起き野球大会	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより豊かな社会生活に寄与することを目的に開催した。 【第53回新潟市早起き野球大会】 期日:平成30年5月20日～7月29日 会場:ハードオフエコスタジアム新潟 外9会場 参加チーム数:148チーム	エントリーチーム数 160チーム	エントリーチーム数 148チーム	C	エントリーチーム数については全国的に減少傾向にあるが、本大会は日本一の規模を誇っている。	2	参加チームの維持・増加につながる対策を検討し、競技方法及び運営方法を改善するなど大会の魅力向上に努める。	2	PRをより行いながら、参加チーム数を増やせるよう、より参加しやすくなるような取り組みをしてほしい。
4	新潟シティライド	自転車を有効に活用して市民の健康の維持・増進とサイクルスポーツの普及・促進を図ることを目的として、市内をサイクリングしながらエイドステーションで新潟ならではの食を堪能できるイベントを開催した。 平成30年6月3日(日) ロングライド(120km)・ミドルライド(70km)・ショートライド(33km)	エントリー者数 ロングライド:550人 ミドルライド:50人 ショートライド:50人	エントリー者数 ロングライド:617人 ミドルライド:107人 ショートライド:50人	A	ロングライドとミドルライドの定員をそれぞれ50名ずつ増やしたが、ミドルとショートはエントリー開始後すぐに、ロングも14時間前から定員に達し、人気の高さがうかがえる。	2	この人気を維持するため、一度限りの参加ではなくリピーターとなってもらえるよう、魅力のあるイベントにする。	2	運営面での課題はあるものの、概ね順調に取り組まれている。
5	新潟ヒルクライム	岩室地域の魅力を全国に発信し、交流人口の拡大を図るとともに、サイクルスポーツの振興を目的として、弥彦競輪場での1マイルタイムトライアルと岩室温泉をスタートし弥彦山スカイラインを麓から頂上まで自転車で駆け上がるヒルクライムの2種目で開催した。 平成30年9月1日(土) 1マイルタイムトライアル:弥彦競輪場4周回(距離1.6km) 平成30年9月2日(日) ヒルクライム:岩室温泉から弥彦山頂(距離7.6km/5.3km)	エントリー者数 500人	エントリー者数 584人	A	1マイルタイムトライアルを新設したことで、多くの参加者を獲得でき、ヒルクライムとは違った楽しさを提供することができた。	1	新設した1マイルタイムトライアルをより広く周知し、さらなる参加者数増を図っていく。	2	運営面での課題はあるものの、概ね順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者、障がい者までが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)			新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)				
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
6	氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の底辺拡大を図るため、市内小学校の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成した。	実施校数 70校	実施校数 52校(53件)	C	引き続き周知時期・事業開始時期を早め実施の機会の拡大に努めたが、数値目標、対昨年度(54校)比ともに下回る結果となった。 学校の授業カリキュラムが増加しているなど、校外学習を授業時間に入れることが難しくなっている状況も影響していると考えられる。	1	各校の年間計画の策定に配慮し、周知・事業の開始期を29年度同様に早め、引き続き実施の機会を増やしていく。 実施する学校が一定であることから、新規に本事業を導入してくれる学校の発掘が必要であり、取り組みが必要と考える。	1	アイスアリーナに行きたくするような雰囲気づくり、より利用してもらえるような取り組みをしてほしい。 アイスアリーナをもっとPRし、認知度の向上を。
7	市民綱引き大会 (スポーツ協会)	冬期間のスポーツとして、綱引きを通じて地域スポーツの振興と市民相互の親睦を図るとともに冬場の健康維持・増進を目的に気軽に参加できる種目として開催した。 今大会は30回記念として、記念種別として一般と小学生と一緒に綱を引くカテゴリーを新設して実施した。 ・一般の部(混成の部) ・小学生の部(高学年の部、低学年の部) ・第30回記念大会 一般と小学生混成の部	エントリーチーム数 一般の部:16チーム 小学生の部:50チーム	エントリーチーム数 一般の部:14チーム 小学生の部:49チーム 一般と小学生混成の部:16チーム	A	毎年参加する常連のチームが多く、市民の間で冬場のスポーツイベントとして定着しており、多くの参加者を保っている。大会開催前より、各地域で練習に取り組む活動を行うことから、冬場の健康維持・増進に寄与している。記念種別の実施により、8行政区全てからチームの参加があり、次年度以降は新規チームの参加も期待できる。	1	健康づくりや地域間の交流の場として、当初の目的は達成している。 実行委員会や地域団体、協賛企業と協力しながら参加者の拡大・内容の充実に努める。	3	地域、学校、クラブ単位で一体感が生まれているなど、雰囲気の良い大会であり、順調に取り組まれている。
8	健康・体力づくりのつどい (スポーツ協会)	市民が健康で、いつでもどこでもいつまでも、気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目的に、かけっこ教室や逆上がり教室、体力測定など市民ニーズに対応したイベントを開催した。	参加者数 2,200人	参加者数 1,650人	C	台風接近に伴い、一部種目が中止となり、前年(2,550人)と比べて参加者数が減少した。 スポーツ少年団たすきリレーマラソンでは、イベントを通じて少年団の活動や理念を理解してもらい新規登録を促す目的で、今年度から少年団未登録チームでも参加できるように変更して好評を得た。	1	より魅力ある市民参加型イベントにするために、大学生や競技団体等からボランティアを募るほか、企業協賛の拡充を図るなど、地域と一体となって事業の充実に努める。	2	会場を市陸上競技場だけでなく、他区体育施設も活用するなど、地域で参加しやすいようにしてほしい。
9	市民サッカー大会 (スポーツ協会)	生涯スポーツの普及と市民相互の親睦を図り、健康の維持増進を目的に、サッカー大会を開催している。	エントリーチーム数 90チーム 参加者数:1,250人	エントリーチーム数 95チーム 参加者数:1,240人	B	当年度から市の予算措置がなくなったため予算を前年比2/3に縮小して開催した。当初は参加者減少が見込まれたが、未経験者でも参加しやすいようカテゴリーを変更するなど取り組みを行ったことで、前年(96チーム、1,230人)並みの参加者数・チームであった。	2	市民の健康づくりとスポーツの振興に貢献していることから、当初の目的はほぼ達成している。 参加者層が高齢化していることから、安全性の観点からもカテゴリー分けについて引き続き検討していく。	3	高齢者の参加が多くなっているのは良いこと。 チーム数も増えており、順調に取り組まれている。
10	市民総合体育祭 (スポーツ協会)	春季と秋季の年2回、スポーツ協会加盟団体がスポーツの普及振興と競技力向上を目的に開催している。	開催種目数 春季:20種目 秋季:30種目	開催種目数 春季:24種目 秋季:35種目	A	市民総合体育祭を主管する加盟競技団体と連携し、市民の健康増進と競技力の向上が図れた。	2	競技の普及・振興ならびに競技力の向上に寄与することから継続して実施する。また、未実施の加盟競技団体へ大会開催の声掛けを行う。	2	競技数が増えており、一般から参加しやすいようにされている。 生涯スポーツの普及につながるような取り組みをしてほしい。
11	新潟県障がい者スポーツ大会開催事業	新潟県とともに全国障害者スポーツ大会の派遣選考大会である「新潟県障害者スポーツ大会」を開催した。	参加者数 個人競技:6種目・750人 団体競技:5種目・130人	参加者数 個人競技:6種目・744人 団体競技:5種目・261人	A	障がいのある人が参加できるスポーツ大会が少ない中で、日頃のスポーツトレーニングの成果を競い合う良い機会となっている。	2	参加者が年々減少傾向にあるため、大会の周知を行いながら、今後も引き続き大会を開催する。	2	概ね順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者,障がい者までが生涯にわたって,スポーツ・レクリエーションを通じて,健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
1	シニアはつらつにいがた 総おどり事業 (高齢者支援課)	「総おどり体操」について,体験会の開催や指導スタッフの派遣を実施するとともに,希望者を募りにいがた総おどり等に参加することで,高齢者が健康づくり・介護予防・生きがいがいづくりに気軽に取り組める機会を提供した。また,指導者養成講座を開催し,市民による自主的な広まりを推進した。	体験会等参加者数 延5,800人	体験会等参加者数 延7,530人	A	体験会への参加が定着してきていることに加え,広い会場での体験会を実施したことにより多くの参加者を得た。	2	健康づくり等への関心が薄い方への普及を図るため,関係機関・団体との協力を一層強化して活動を進めていく。 指導者養成講座によりライセンスを取った方の活動の場を広げる。	
2	全国健康福祉祭事業 (高齢者支援課)	新潟市予選会で選出された選手に対し,全国健康福祉祭とやま大会に参加するための派遣に関する費用の助成を行い,参加者の費用負担を軽減した。	派遣人数 157人	派遣人数 106人	C	これまで実績のなかった新たな種目(ラグビーフットボール)への選手派遣を行う一方で,ソフトボール(定員15名)やサッカー(定員20名)をはじめ,人数の多いチームが辞退したため,目標よりも低い数値となった。 派遣期間が4泊5日であることが選手にとって参加への負担となっている。	2	予選会を主催している新潟県社会福祉協議会と協議しながら,予選会の参加種目を増やすなど,より多くの高齢者の参加につながるよう周知するとともに,派遣方法についても柔軟な対応を進める。	
3	いきいき健康づくり 支援事業 (保健所健康増進課)	一人ひとりの目的に応じた運動目標値(有酸素運動+筋トレ)を提供した。あわせてフォローアップ教室を13会場で月2回ずつ開催し,無理なく安全に運動の継続ができるよう支援した。	参加者数 1,100人	参加者数 690人	D	事業を段階的に終了することが決定し,新規参加者募集を行わなかったため。	4	本事業では,参加者の拡大が見込めないため,段階的に縮小し,令和元年度で終了予定。 働く世代の運動習慣定着については,健康経営支援にあわせて新たに取り組んでいく。	
4	新潟市障がい者大運動会 (障がい福祉課)	障がいのある方もない方も一緒にスポーツを行うことを通じ,親睦と友情の輪を広めながら「共に生きる喜び」をわかちあい,障がいや障がいのある人への理解を深めるため「新潟市障がい者大運動会」の開催準備に取り組んだ。	参加人数 700人程度	参加人数 700人	B	屋外開催から屋内開催に内容を見直したことで,天候に左右されず事業を実施することができた。	2	障がいのある方もない方も,スポーツを通して親睦を深める取り組みがさらに活性化するよう,継続して事業を実施する。	
5	学校施設開放事業 (教育委員会 地域教育推進課)	生涯スポーツの振興を図るために,学校教育に支障のない範囲で,市立の学校施設等(体育館,武道場,プレイルーム等)を開放する。	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	164校で実施 (小106・中56・東特別・明鏡高)	B	学校施設を開放し,市民の健康増進と競技力の向上が図ることができた。	2	学校施設を開放することにより,市民の健康増進と競技力の向上に繋がっているため。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	健康スポーツ:生涯にわたるスポーツ活動を推進します。
基本目標	子どもから高齢者,障がい者までが生涯にわたって,スポーツ・レクリエーションを通じて,健康で豊かな生活を営むことのできる取り組みを推進します。

A・・・指標を上回って達成	B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った	D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手	

1・・・充実	2・・・現状維持	3・・・内容見直し
4・・・縮小	5・・・廃止・休止	6・・・完了
7・・・その他		

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
6	体力向上ジャンプアップ 推進事業 (教育委員会 学校支援課)	市内全小・中学校の取組を集約し,冊子にまとめ,全小・中学校に配付した。他校の取組を知ることで,自校の取組の改善に生かすことにつながった。	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し,情報提供	すべての小・中学校の取組を学校別に集約し,情報提供	B	計画通り実施できたため。	2	各校の取組を共有することで,取組の見直しにつながるから。	
7	子供の体力向上指導者養成研修会への体育教員派遣 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に,市内小・中学校から2名の教員を派遣した。研修後,派遣した教員が指導者となり,市内全小学校,市内の中学校(30人以上)を対象に伝達講習会を実施した。	幼稚園,小・中学校から3名の教員を派遣	小・中学校から2名の教員を派遣	C	当初目標は未達ではあるが,計画通り実施することができた。	2	新学習指導要領全面实施に向けて,新学習指導要領の理解を深めるために必要であるから。	
8	幼稚園運動遊び指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	6月に市内幼稚園の教員12人を対象に,派遣した教員が指導者となり,伝達講習会を実施した。	対象者20人 (8月開催)	参加者12名 (6月開催)	C	市内全幼稚園から参加者があり,よい講習会となった。対象者人数を多く設定したことが達成度Cとなった要因。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。	
9	小学校体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり,市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者:1回目53人 (北区,東区,中央区, 江南区から各校1名) 2回目55人 (秋葉区,南区,西区, 西蒲区から各校1名)	106名の参加 (6月開催)	C	目標に若干届かなかったが,計画通り実施することができた。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。	
10	中学校保健体育指導者研修会 (教育委員会 学校支援課)	スポーツ庁主催の研修会に派遣した教員が指導者となり,市内全小学校の受講者に伝達講習会を実施した。	対象者28人(北区,東区, 江南区,秋葉区の 学校から各校1名)	32名の参加(11月開催)	A	計画通り実施できたため。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。	
11	中学校柔道実技講習会 (教育委員会 学校支援課)	市内全中学校から各校1名参加し,講習会を実施した。	対象者57人 (各校1名) ※中等含む	参加者56名	C	目標に若干届かなかったが,計画通り実施することができた。	2	学習指導要領に即した授業実現のために,このような実技講習会は有効であるから。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成  
B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った  
D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	ジュニア強化事業 (スポーツ協会)	新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍し世界へ羽ばたく選手を育成するため、加盟競技団体と連携し、ジュニア世代(小・中・高校生)を対象とした強化事業を実施した。  ◆ジュニア強化事業 スポーツの振興と競技水準向上を目的に、加盟団体のうちジュニア選手の強化事業を実施している27競技団体に対して、係る経費の一部を助成して支援を行った。  ◆にいがたスーパージュニア育成事業(以下、SJ育成事業) ボクシング、柔道、バドミントンの3種目について、新潟市からオリンピックなど国際大会で活躍する選手の輩出を目指し、オリンピック等の国際大会で活躍した選手やコーチを招へいして通年(年10回程度)による選手強化を行った。  ◆氷上スポーツ育成事業 国内外で活躍する選手や講師を招聘し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行った。	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 2事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	ジュニア強化事業実施数 27団体 SJ育成事業数 3事業 氷上スポーツ育成事業実施数 3団体	A	ジュニア強化事業は各団体を対象に実施状況や課題等のヒアリング(隔年)を行い、次年度予算配分を決定した。競技実績や指導体制など点数化しており、効果的な予算配分ができていと考えられる。 SJ育成事業は3年目を迎え、H30年度からバドミントンを加えた計3競技で実施している。インターハイ(柔道)ではSJ育成事業OB・OGが準優勝するなど成果が出ている。 カーリング、アイスホッケー、フィギュアの氷上スポーツ育成事業においては、国内外で活躍する選手や講師を招へいした。	1	ジュニア強化事業については、スポーツの普及振興や競技力の底上げを担う事業であることから、継続して実施していく。 SJ育成事業については、ヒアリング等を実施して3年目の成果を検証する。 氷上スポーツ育成事業は、ジュニア層の競技力向上を目的に競技団体と連携を図り実施する。	3	順調に取り組まれている。
2	スポーツ指導者講習会 (スポーツ協会)	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした研修会を開催した。	講習会開催数 1回 100人	講習会開催数 2回(午前・午後)77人	C	前年度まで年1回、1テーマで実施したが、参加者の要望を受けて、コーチングと栄養学の2つを午前・午後に分けて講習会を実施したところ、昨年度(62人)と比較すると参加人数は増加したが、目標までは届かなかった。	1	多様化する市民や競技団体のニーズに対応するため、複数テーマの実施や日程(同日の午前・午後ではなく、日にちを分けて開催するなど)について引き続き検討する。	3	順調に取り組まれている。
3	国際大会等出場者激励金	本市を代表して国体及び海外での国際大会に出場する選手、監督等に激励金を支給し、また、全国大会に出場する小中高生に対しても激励金を支給した。	国体出場者 180人 国際大会出場者 6人 小・中・高校生全国大会出場者 520人	国体出場者(冬季含む) 176人 国際大会出場者 17人 小・中・高校生全国大会出場者(甲子園含む) 536人	B	国体出場者は若干の目標未達ではあるものの、他は目標を上回る出場者数であり、目標を達成した。  平成29年度実績 国体出場者201人 国際大会19人 全国大会(甲子園含む)505人	2	平成30年度から、内容改正(一部金額変更)した制度で運用開始した。予算の範囲内で申請のすべてに対して激励金を支給することができた。今後も運用を継続し、スポーツの奨励と振興に寄与する。	3	順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	競技スポーツ: 競技力の向上を推進します。
基本目標	新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地になる夢を実現するため、競技力の向上を推進します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
 2・・・概ね取り組まれている  
 1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
 0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	全国障がい者スポーツ大会選手派遣事業	平成30年10月に開催された第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」へ新潟市代表として選手を派遣した。	個人競技 18人	個人競技 26人 団体競技 7人	A	選考会となる県大会出場選手が減少傾向にある中ではあるが、市選手団として派遣することができた。	2	今後も障がい者の社会参加やスポーツに取り組むきっかけを作るため、より多くの方に出場機会を提供し市選手団を全国障害者スポーツ大会に派遣する。	3	順調に取り組まれている。
			11,610	12,477						
5	全国障がい者スポーツ大会選手強化事業	全国障害者スポーツ大会に派遣する選手を対象とした練習会を開催するとともに、団体競技において強化指定チームへの支援を行った。また、新たな選手の育成に向け各種スポーツ教室を開催した。	練習会・合宿の開催	練習会・合宿の開催	B	練習会において専門的な指導を行うことで競技力向上が図られた。また、強化指定チームに強化費を助成することで大会遠征や継続的な活動が行われている。	2	個人競技では全国大会で大会新記録を達成した選手が出てくるなど選手強化の成果が表れており、引き続き取り組みを行っていく。	3	順調に取り組まれている。
			3,065	3,065						
6	障がい者スポーツ全国大会参加激励金支給	国や公共団体等が主催する障がい者全国大会等の参加者に激励金を支給。	実施	個人53人 団体3団体	B	H29年度(個人26人、団体4団体)を上回る支給実績となった。	2	全国大会へ参加する者の負担を軽減し、積極的な社会参加を促している。引き続き激励金の支給し、支援を行っていく。	3	順調に取り組まれている。
			405	515						

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会, 交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成	B・・・指標とおり達成
C・・・指標を少し下回った	D・・・指標を大きく下回った
E・・・未着手	

1・・・充実	2・・・現状維持	3・・・内容見直し
4・・・縮小	5・・・廃止・休止	6・・・完了
7・・・その他		

3・・・順調に取り組まれている
2・・・概ね取り組まれている
1・・・より積極的な取り組みをお願いする
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業	<p>プロスポーツチームを通じて、夢と感動を共有し、青少年の心身の健全育成とスポーツ文化の醸成を図るため開催した。</p> <p>1. サッカー教室開催 期日:平成30年7月1日 会場:新潟県スポーツ公園</p> <p>2. サッカー指導者派遣 期日:平成30年5月11日～12月31日 54回 会場:デンカビッグスワンスタジアムほか</p> <p>3. サッカー観戦招待 期日:平成30年4月2日～平成31年3月31日まで11試合 会場:デンカビッグスワンスタジアム</p> <p>4. 野球観戦招待 期日:平成30年6月1日～11月30日まで7試合 会場:HARDOFF ECOスタジアム新潟</p> <p>5. 男子・女子バスケットボール観戦招待 期日:平成30年10月11日～平成31年2月10日まで6試合 会場:新潟市東総合スポーツセンターほか</p>	<p>サッカー教室参加者数 300人</p> <p>サッカー指導者派遣数 182人</p> <p>サッカー観戦招待者数 20,000人</p> <p>野球観戦招待者数 85組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 70組</p>	<p>サッカー教室参加者数 486人</p> <p>サッカー指導者派遣数 148人</p> <p>サッカー観戦招待者数 10,564人</p> <p>野球観戦招待者数 135組</p> <p>バスケットボール観戦招待者数 90組</p>	B	<p>昨年度参加者数が減少し課題となったサッカー教室(130人)だが、改善(対象者を小学生一園年中生～小学生に拡大など)を行なった結果、参加者数が大幅に増え目標を大きく上回ることができた。</p> <p>サッカー観戦招待者数は、目標未達、昨年度と比べても大きく落ち込んでいる。J2への降格やJ2での成績不振による観戦者数自体の減少が、申込者数の減少に影響している。</p>	3	<p>サッカー教室については、引き続き参加者数の増加に努める。</p> <p>観戦招待については、チーム成績によるところが大きい。観戦者数全体が減少している中、年々サッカー観戦招待の申込者数が減少している。申込者数を増やすべく、告知方法などの改善が必要である。</p>	3	順調に取り組まれている(特に、サッカー教室参加者数が昨年比3倍であることが評価できる)。
2	プロ野球招致推進事業	<p>官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致し、観戦招待事業や、横浜DeNAベイスターズのラミレス監督のトークショーを開催した。</p> <p>平成30年4月17日(火) 横浜DeNAベイスターズvs読売ジャイアンツ</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 1試合</p>	<p>プロ野球公式戦開催数 1試合</p>	B	<p>ハードオフ エコスタジアム新潟のオープン以来、一定数のプロ野球公式戦を招致・開催しており、新潟でプロ野球を楽しむ環境が整っている。</p> <p>開催機運醸成のためのトークショーを実施し、県民シートとして福祉施設関係者を観戦招待した。</p>	2	<p>プロ野球公式戦の開催実績を重ねるとともに、観戦招待事業をはじめとする興行支援を行い、機運の醸成を図りながら将来的な球団誘致も視野に入れるとともに、交流人口の拡大、地域活性化につなげていく。</p>	1	試合数を増やす取り組みをしてほしい
3	大会、合宿等誘致の推進	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などのナショナルチーム事前・直前合宿や障がい者スポーツの全国大会を誘致・開催した。</p> <p>◆国際大会 第22回国際ユースサッカーin新潟</p> <p>◆全国大会 第1回女子硬式野球新潟大会、第14回日本車椅子カーリング選手権、第20回全日本選抜選層軟式野球大会、高松宮杯全日本軟式野球大会(2部)、第20回全国中学選抜卓球大会、平成30年度風間杯第62回全国高等学校選抜レスリング大会</p> <p>◆合宿 女子硬式野球、女子硬式野球(U18)</p>	<p>国際大会数 2</p> <p>全国大会数 7</p> <p>ナショナルチーム合宿数 3</p>	<p>国際大会数 1</p> <p>全国大会数 6</p> <p>ナショナルチーム合宿数 2</p>	C	<p>ワールドカップ6連覇を達成した女子硬式野球日本代表の合宿や日本車いすカーリング選手権大会の開催により、新潟市の知名度の向上、スポーツを通じた交流の推進や地域経済の活性化を図ることができた。</p>	1	<p>平昌冬季五輪のロシア・フィギュアスケートの合宿の実績を基に、市内での合宿実績を積み上げるにより、今後のオリンピック・パラリンピック直前合宿や国際・全国大会の誘致・開催につなげる。</p>	2	より取り組みをお願いしたい。



第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	みるスポーツ:みる機会、交流機会の拡大を図ります。
基本目標	国際・全国規模の大会やナショナルチームの合宿等を誘致するとともに、地元プロスポーツチームとの連携を推進し、トップアスリートのプレイを見ることで感動と興奮を共有し、ふれあいや地域の交流を促進します。

A・・・指標を上回って達成  
B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った  
D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	氷上スポーツイベント 開催事業	新潟市アイスアリーナにおいて、村上佳菜子さんや、県内選手によるフィギュアスケート演技発表会を行い、トップアスリートの演技に触れる機会を提供し、フィギュアスケート、アイスホッケー、カーリングの教室・体験会を行い、氷上スポーツを行うきっかけとなるイベントを開催した。  平成31年3月16日(土) 新潟アサヒアレックスアイスアリーナオープン5周年イベント	イベント参加者数 580人	イベント参加者数 656人	A	村上佳菜子さんといったトップスケーターを招致できたこと、ラジオやテレビCM、市HPバナーなどの広報に努めたことで、目標を上回ることができた。	2	フィギュアスケート教室については定員をはるかに上回る応募があったため、氷上スポーツに対する興味や関心は高まっていると考える。知名度のあるゲストスケーターを迎えるなど、より多くの方に楽しんでいただける魅力のあるイベントにする。	3	順調に取り組まれている。
5	オリンピックムーブメント 事業	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて市内の機運醸成を図るため、オリンピックムーブメントの普及・啓発を目的としたイベントを開催した。  実施主体 新潟市文化・スポーツコミッション オリンピック教室 平成30年9月21日(金)(濁川中学校) オリンピックデーラン 平成30年9月22日(土)(デンカビッグスワン)	参加者数 1,000人	参加者数 1,111人	A	オリンピック教室については、オリンピックによる自身の経験に基づいたオリンピック精神を学ぶ機会を提供することができた。オリンピックデーランについては、オリンピックと市民の交流の機会を提供することができた。	2	オリンピックムーブメントの普及・啓発はもとより、オリンピックに向けた市内の機運醸成から今後の外国からの観光客の誘致や国際大会等の誘致に向けた取り組みにつなげる。	3	順調に取り組まれている。
6	国際ユースサッカー in新潟の開催	国際サッカーイベントを通じたスポーツ交流により、各国青少年の相互理解及び国際友好親善を深めるとともに、新潟を国内外に大きくアピールした。海外からはヨーロッパ、南米からそれぞれ1チームずつ参加した。  平成30年7月14日(土)～16日(月) デンカビッグスワンスタジアム 他  参加チーム 海外招待(メキシコ、クロアチア)U17代表 U17日本代表 U17新潟選抜	観戦者数 5,000人(3日間)	観戦者数 7,000人(3日間)	A	出場選手からは多くのA代表選手が選出されており、2020東京オリンピックに向けての注目度が高まっている。	2	ユースのトップチームによるレベルの高いゲームを本市を含む県内各地で開催することにより、サッカー機運の醸成及び地区サッカー協会の運営能力の向上に大きな役割を果たしている。  ※昭和63年からの全国ユースサッカー大会を前身とし、平成9年より「国際ユースサッカーin新潟」として毎年開催し、平成30年度で22回目を迎えた。	3	長く続いていることも評価でき、順調に取り組まれている。
7	日韓交流少年サッカー の開催	日韓の小学生世代における国際交流と競技力の向上を目的に開催し、韓国蔚山市サッカー協会と新潟市サッカー協会の相互交流が図られている。  平成30年8月3日(金)～6日(月) 蔚山市	交流回数 1回	交流回数 1回	B	平成30年度は新潟市の選手13名が韓国・ウルサン市を訪問しサッカー交流を行った。	2	今後も相互交流を続けることを両協会が確認した。  ※平成12年から始め、平成30年度で16回目を迎えた。	3	長く続いていることも評価でき、順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価<第1次評価>				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価<第2次評価>			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	スポーツ施設の管理運営・整備	スポーツの普及振興を図り、市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与するため、本市が設置するスポーツ施設の管理運営を行う。また、スポーツ施設の運営が円滑に行われるよう必要な補修工事を行う。  【H30工事実績】 ・遊水館プール濾過設備改修工事 ・小須戸運動広場野球場バックスクリーン改修工事 ・鳥屋野総合体育館中央監視装置更新工事 ほか	施設利用者数 4,000,000人	施設利用者数 約4,010,000人	B	昨年度(約4,160,000人)と比べると、補修工事による利用中止などにより利用者が減少した区が多いが、全体としては目標を達成した。	2	市民の健全な発達と明るく豊かな市民生活のため、スポーツ施設の管理運営及び必要な補修工事を行う。	2	今後さらに利用者が増えるように、取り組みを続けてほしい
2	スポーツ施設の整備・改修方針の検討	昭和39年開催の新潟国体に合わせて整備された施設など老朽化が進んでいる施設もあり、大規模な改修や更新、施設の集約化を計画的に行う必要があることから、スポーツ施設の整備・改修方針の検討を行う。	集約化方針の検討	集約化方針の検討	B	昨年度に収集した施設関係の情報を基に、整備・改修方針の素案(たたき台)の検討、作成に着手した。	2	今後は、各区スポーツ担当課などとともに、素案の検討を進める。また、当市全体としての各種施設の配置方針の検討と足並みを揃えながら取り組んでいく。	2	今後、スピード感を持って取り組んでほしい。
3	スポーツと音楽功労者表彰事業	スポーツと音楽芸能の振興及び発展を目的に、功績が顕著な個人または団体を表彰している。  表彰数:スポーツ関係471件(平成30年3月31日現在)	実施	実施 (スポーツ関係8名)	B	市スポーツ協会を通じ競技団体などからの推薦に基づき、スポーツ・音楽功労者選考会議に諮り、適正に表彰を行なった。	2	今後も、本市のスポーツと音楽芸能の振興及び発展に尽くした功労者を表彰し、スポーツを支える環境づくりを進める。	2	概ね順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価(第1次評価)				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
4	スポーツ推進委員の活動推進	地域スポーツの推進役となるスポーツ推進委員の資質向上を目的に市スポーツ推進委員連盟自主研修会を開催した。	研修会開催数 2回	研修会開催 3回	A	平成30年度新任スポーツ推進委員などを対象とした新任研修会をはじめ、全体研修会、新年研修会と年3回の研修会を開催。	2	地域スポーツの推進役であり要である推進委員には、知識や技能の向上が求められている。今後も資質向上に繋がるよう一層の支援に努める。	2	参加者数(参加率)の増加に向けて取り組んでほしい。
5	スポーツ振興会の育成・支援	スポーツ振興会の中心的役割を担うマネージャーの育成と資質向上のため研修会を開催した。	研修会開催数 1回	研修会開催 1回	B	新潟医療福祉大学佐藤敏郎教授を講師に招き、中高年者の健康づくりのための運動とその効果についての講演会を開催。	2	今後も市スポーツ推進委員連盟などと連携し、充実した研修会が開催できるよう内容を協議し、実施していきたい。	2	参加者数(参加率)の増加に向けて取り組んでほしい。
6	スポ柳都にいがた指導員養成研修会	ジュニア層の指導者の養成・資質向上のため、研修会を開催した。本研修会修了者を少年少女スポーツ大会の指導者資格の一つとしている。	参加者数 100人	参加者数 49人	C	参加者数は減少したが、少年少女の4種目だけではなく、多種多様な競技を専門としている方々に興味を持ってもらえた研修会となった。	2	参加者アンケートの内容をもとに、実績のある講師を迎えるなど、魅力があり資質向上のための一助となる研修会となるよう内容を検討していく。	2	PRの工夫をするなど、参加者数の増加につながるようにしてほしい。
7	スポーツボランティアの育成	10月8日(月・祝)に開催した新潟シティマソン2018において、救護や給水、手荷物返却などの業務に従事するボランティアに目標を大きく超える600人程度の参加があった。	シティマソン学生・企業ボランティア数 100人	シティマソン学生・企業ボランティア数 598人	A	専門学校や高校、民間企業などに働きかけを行い、中学生を含む学生(464人)及び企業(134人)から参加があった。	1	今後も大学や専門学校、高等学校、中学校、企業などへ協力を依頼していくとともに、公募ボランティアについても引き続き募集していく。	3	目標を上回るボランティア数である。人数の少ない大学生へのアプローチも行なっており、順調に取り組まれている。

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
1	スポーツ少年団の育成 (スポーツ協会)	スポーツ少年団の普及・育成および活性化を図るため、登録業務や大会等を実施した。	登録団体数 120団体	登録団体数 125団体	A	少子化等の影響から、団体の合併・解散が全国的に加速しており、本市においても前年と比較すると団体数は減少している。少年団登録団体は市内スポーツ施設において学校料金が適応されることから、新規登録団体も多く、他市町村と比べても団体数の減少は緩やかである。	1	スポーツ少年団活動は、地域におけるスポーツ活動の拠点として、スポーツの普及振興、青少年の健全育成に寄与していることから、今後も大会・研修会等を継続的に実施していく。指導者の育成にあたっては、2020年度から有資格指導者の制度改正があるため、研修会等に参加してスムーズに新制度に移行できるよう準備を進めていく。	
2	スマートウェルネスシティ講演会 (スマートウェルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	スマートウェルネスシティを広く市民に周知することを目的とし、市民向けの講演会を実施した。	実施	実施 参加者数 260人	B	新潟市民プラザで田中ウルヴェ京氏を講師に開催した。健康寿命延伸アワード表彰式もあわせて実施したことで、地区組織の代表など、核となる人材から健康づくり事業の大切さを聞いていただいた。また自身の健康づくりに既に取り組んでいる方にも、地域・団体に仲間と取り組むことについて啓発を行った。	5	全市民を対象にした講演会の実施は終了する。健康意識の向上と地域・団体の自主的な健康づくり活動の普及については、各区におけるイベントや組織との連携等を通し推進していく。	
3	健康マイレージ (スマートウェルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	健康づくり行動への動機づけと継続を支援するインセンティブ制度。健康づくりに関する講演会やイベント、また体育施設で実施するスポーツ教室等に参加した際に景品の抽選に応募できるシールまたはスタンプを付与した。  平成30年度は健診受診のインセンティブとしてリニューアルを行なった	実施	応募数 3,088口	B	検診受診のインセンティブとしてリニューアルを図った。初めて受診した人が7%、数年に1回受診している人が11%であった。またインターネットからの応募も可能としたことで、40-50歳代の応募数も増えた。	2	平成30年度の内容を引き続き実施する。検診受診のきっかけ、また健康づくり活動全般の機運醸成につながるよう実施していく。	
4	未来ポイント (スマートウェルネスシティの推進) (保健所健康増進課)	健康づくり行動への動機づけと継続を支援するインセンティブ制度。健康づくりに関する講演会やイベント、また体育施設の個人利用で、市共通商品券またはバス乗車ポイントに交換できる「未来ポイント」をバスICカードやおサイフケータイに付与した。	参加者数 9,953人(H29実績)以上	参加者数 13,029人	A	体育施設利用者の延参加者数と発行ポイント数が増加していることから、体育施設利用者にないがた未来ポイントが浸透してきたと考えられる。	2	平成30年度の内容を引き続き実施する。また、健康づくり無関心層の参加を促すため、より参加しやすいシステム構築を検討していく。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	支えるスポーツ:スポーツを支える環境を構築します。
基本目標	地域で気軽にスポーツに親しめる環境づくりを促進するとともに、スポーツ施設の将来的なあり方についての方針を検討します。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
5	公共交通の強化及び 利用促進 (スマートウエルネスシティの推進) (都市交通政策課)	新バスシステムの段階的な機能向上により、過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開する。	実施  280,548	実施  282,187	B	◇モビリティ・マネジメントの推進 ◇「シニア半わり」の実施 ◇BRTの改善に係る調整・検討 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	1	◇モビリティ・マネジメントの推進の一環として、各種イベント等でトリセツの配布 ◇「シニア半わり」の実施 ◇BRTの改善に係る調整・検討 ◇PR活動の強化 ◇各施設の機能向上 ◇新バスシステム事業評価委員会の運営	
6	自転車利用環境の整備 (スマートウエルネスシティの推進) (土木総務課)	歩行者の安全確保、自転車の交通事故の削減、自転車利用の促進を目的に、自転車走行空間の整備、自転車利用ルール・マナーの啓発を推進した。	・自転車走行空間整備の延伸 ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付1回、HPやツイッターの活用  63,453	・自転車走行空間整備の延伸(30.5km) ・自転車利用に関する啓発のため、学校等へのチラシ送付(1回)  63,876	A	自転車走行空間整備は、予算調整を早めに行うことで、当初の目標以上の整備を行うことができた。	1	自転車走行空間整備を引き続き推進していくほか、自転車ルール・マナーの啓発活動の充実を図る。	

第2次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画 平成30年度実施事業 進行管理調書

基本方針	スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制 :スポーツ情報ネットワークとスポーツ医科学支援体制を充実します。
基本目標	スポーツ情報の発信に努めるとともに医科学支援体制の充実を図ります。

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

3・・・順調に取り組まれている  
2・・・概ね取り組まれている  
1・・・より積極的な取り組みをお願いする  
0・・・早期に取り組む必要あり

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価<第1次評価>				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価<第2次評価>			
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価	
1	目指せオリンピック! 医科学サポート事業 (スポーツ協会)	にいがたスーパージュニア育成事業の実施にあわせてスポーツトレーナー等を派遣し、傷害予防やコンディショニング調整を目的に競技力の向上を図った。	スポーツトレーナー派遣競技団体数 2団体(柔道・ボクシング)	スポーツトレーナー派遣競技団体数 3団体(柔道・ボクシング・バドミントン)	B	にいがたスーパージュニア育成事業の対象である3団体を対象として事業を実施し、傷害予防・コンディショニング調整等により競技力向上に寄与した。 また、バドミントンにおいては県医科学センターの体力測定等を活用し始めた。	1	競技団体とのヒアリングを実施して課題や現状について共有を図りながら、オリンピックや国際大会等に出場・活躍する選手の輩出に向けて強化指定選手を医科学面で更にサポートしていく。	2	事業のジュニアだけでなく、加盟連盟・協会にも活用されるよう、より取り組みをお願いしたい。
2	公共予約システムの運用	市民がいつでも気軽にスポーツ施設を利用できるよう、インターネットによる施設予約システムの充実・運用を図る。 ・スマートフォンサイトの開設(H28.3.1)	システム利用件数 31,000件	システム利用件数 29,667件	C	申込みにシステムを利用した割合は、昨年度よりも増加したが、全体の予約件数が昨年に対して減少したため、目標未達となった。	2	市民の利便性のため、施設予約システムの運用を継続し、周知に努める。	1	システムの利用促進に向けた取り組みをしてほしい。
3	スポーツ振興課ホームページ	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行う。	アクセス数 1,000,000件	アクセス数 約945,000件	C	昨年度実績と比較すると、7月から11月までのアクセス数の減少幅が特に大きいことから、昨年夏頃の高温により、市民が運動やスポーツを控えたことが影響していると考えられる。	2	ホームページを活用した市民への情報提供を継続する。また、総合体育館など各区基幹施設やシニアマラソンやヒルクライムなどのイベントページへのアクセスが多いことから、引き続き施設情報の見直しやイベント情報の更新を行う。	2	SNSなどを活用した情報発信を行うなど、より市民に情報提供できる取り組みをしてほしい。

区ビジョンまちづくり計画(第2次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

北区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価	
		H30数値目標	H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
		予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
生涯スポーツの振興事業	総合型地域スポーツクラブの事業(スポーツ教室,各種イベント等)や区体育協会,地区スポーツ振興会,スポーツ少年団等の事業を,区内体育施設等で実施した。	・区だよりで活動団体紹介 ・補助金による活動支援 ・施設工事計画(指定管理者)に基づいた修繕を実施	・区だよりで活動団体紹介 ・補助金による活動支援(6団体) ・施設工事計画(指定管理者)に基づいた修繕を実施	B	多様なニーズに合わせた各種スポーツ教室・イベントを区内体育施設等で開催した。施設工事計画(指定管理者)に基づいた修繕を実施した。	1	今後も市民ニーズを見極めた事業展開を図る必要がある。	
北区総合スポーツ事業	競技別大会,スポーツレクリエーション体験会,フロアカーリング交流戦を包括した,エンジョイスポーツin北区2018を実施した。北区の自然に親しみながら歩くウォーキングイベントを開催した。	大運動会及びスポーツレクリエーション体験会,フロアカーリング交流戦開催	参加者数 ・スポーツレクリエーション大会,競技別大会,体験会,ニュースポーツ交流戦(1,960人) ・北区元旦歩こう会(603人) ・参加者合計2,563人	B	地域間・世代間交流を通じて区の一体感醸成を図ることができた。	1	フロアカーリングは,用具等環境も整いつつある。交流戦の他,体験会についても検討し,競技者増を図る。また,他団体と協力しながらスポーツレクリエーションや体験会を実施する。	
		1,500	1,417					

東区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価					新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)	
		H30数値目標	H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
		予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
スポーツイベント事業	スポーツ振興会やスポーツ推進委員との連携を図り,区民がスポーツに親しめる環境づくりを進めるため,夏に気軽に参加できるウォーキングイベントを企画し,冬に冬期大運動会を開催した。	実施	・東区市民ウォーク「ほっくほくウォーク」実施(7月7日) ・東区冬季大運動会実施(2月3日)	B	気軽に区民が参加できるイベントを企画し,ウォーキングイベントには159名が参加を申込み,冬季大運動会には336名が参加した。	2	スポーツ推進委員やスポーツ振興会と密な連携を図り,区民が気軽に参加できるイベントを継続して実施する。	
生涯スポーツ支援事業	生涯スポーツ活動を支援し,スポーツ推進委員,スポーツ振興会,との連携を図りながら,区民がスポーツに親しめる環境づくりを進めるため,スポーツ振興会へ新潟市スポーツ振興会補助金を交付した。	実施	6スポーツ振興会に補助金を交付	B	補助金を全スポーツ振興会へ交付することにより,地域のスポーツ普及に貢献しているスポーツ推進委員やスポーツ振興会と連携を図ることができ,区民がスポーツに親しめる環境づくりの一助となった。	2	今後も補助金の交付によるスポーツ振興会への支援を実施し,より密な連携を図りながら,地域のスポーツ活動を推進する。	
体育施設の管理運営	指定管理者との連携を図りながら,子どもから高齢者まで誰もが気軽に体育施設を利用できるよう体育施設の管理・運営を行った。	実施	指定管理者と連携し,東総合スポーツセンターなど区内の体育施設の管理・運営を実施	B	毎月各施設館長とミーティングを行い,施設の状況や利用状況などを情報共有し,誰もが気軽に利用できるよう施設の環境整備に努めた。	2	今後も利用を促進するために,指定管理者と情報共有を図りながら,適切な管理・運営を行う。	
		146	107					
		1,080	1,080					
		305,056	305,056					

区ビジョンまちづくり計画(第2次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

中央区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
中央区 えんでこ(まち歩き)事業	中央区の見どころを市内外の方々から「まち歩き」で楽しんでもらうことで、区の魅力への関心を深めてもらうとともに、「まち歩き」ファンを増やすことで市街地の活性化を図った。	まち歩き参加者数 760人	まち歩き参加者数 668人	C	市報の掲載スペースが減少したことにより、目標をやや下回った。	1	提案型えんでこ(区民からコースを募集するもの)の新規実施などにより内容の充実を図る。	
		1,500	1,018					

江南区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
		H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
スポーツに親しむ機会の創出	身近に取り組めるスポーツとして、ランニングのセミナーを開催した。また「フロアカーリング」の体験会を区内各地で行い、大会を開催するなど、誰でも気軽に取り組めるニュースポーツの普及を行った。 ※区づくり事業は平成27年度で終了。平成28年度以降はスポーツ振興管理運営事業として、引き続き実施。	・ランニングセミナー ・江南区健康ウォーク ・フロアカーリング交流会(親善大会含む)等の実施 目標:4事業以上	・ランニングセミナー ・江南区健康ウォーク ・フロアカーリング体験・大会 ・小学生走り方教室 合計4事業の実施	B	フロアカーリングは区として普及に努め、地区スポーツ振興会とも協力しながら体験会と大会を行い、普及振興を図った。 健康ウォークは募集人数以上の申し込みがあったが、平成30年度は台風接近により中止とした。	1	セミナーはアンケートの結果を基に、内容や開催時期等の再検討を図る。フロアカーリングに関しては地域に広まりつつあり、審判員の養成など新たな面からも普及を図る。	
江南区スポーツ施設の管理運営事業	指定管理による江南区内体育施設(亀田総合体育館・横越総合体育館・亀田運動広場・かわね公園グラウンド・横越体育センター)の運営を通じた教室の開催など、スポーツに親しむ環境づくりを行った。	施設年間利用者目標 568,528人(H29実績)以上	施設年間利用者数 572,864人	A	亀田総合体育館において、武道場の教室・強化練習・大会等での利用が増加したほか、屋内多目的運動場もフットサル、少年サッカーの利用が例年よりも多く、1件当たりの利用者数が増加したことが要因となった。	3	体育施設における利用者数は、新規利用者の獲得等、スポーツに親しむ機会の創出により増加するため、今後は「スポーツに親しむ機会の創出」事業と一体化させ、より良い環境づくりを図る。	
地区スポーツ振興会補助事業	江南区内6スポーツ振興会、10の地区に対し補助金の交付をし、活動を支援した。	補助金の交付 ・地区スポーツ振興会(亀田・大江山・曾野木・東曾野木・両川・横越)	地区スポーツ振興会(亀田・大江山・曾野木・東曾野木・両川・横越)へ補助金を交付した。	B	スポーツ振興会を通して、江南区内の各地域性に合わせた地域に身近なスポーツ事業に取り組み、スポーツ振興を図った。	2	平成30年度も各地区における健康づくりのため、スポーツ振興会の活動を支援した。現在江南区が推奨しているフロアカーリングに取り組んでもらうなど、スポーツ振興会を通してスポーツ振興を図った。	
区体育協会連携事業	区体育協会加盟団体を通して激励金制度等の啓発を行った。子どものスポーツ団体を紹介したほか全国大会へ出場した選手などを称えるスポーツ表彰を実施した。	・区内スポーツ少年団等紹介案内の作成・設置 ・スポーツ表彰式の開催 ・国際大会等激励金制度の啓発	・区内スポーツ少年団等紹介案内の作成・設置 ・スポーツ表彰式の開催 ・国際大会等激励金制度の啓発	B	子どものスポーツ意欲を伸ばす取り組みに力を入れた。また、ジュニアスポーツクラブの紹介を江南区だよりやホームページで行い、スポーツ人口拡大に向けての取り組みができた。	2	今後も区体育協会加盟団体と協力し、スポーツをする人の拡大を図る。	
学校グラウンド等の有効活用検討	地域のスポーツ振興のため、廃校となった酒屋小学校のグラウンド等の有効活用について、地元やスポーツ団体と検討・協議し、要望のあったグラウンドの貸付を行った。	協働による有効活用	地元との協働による有効活用を図った。	B	スポーツ少年団の活動、地域のコミュニティ広場などとして活用されており、目標達成している。	2	廃校施設を活用し、地域のスポーツ振興、地域コミュニティの活性化に寄与した。今後も引き続きグラウンドの貸付を行うなど地域のスポーツ振興を図る。	



区ビジョンまちづくり計画(第2次実施計画掲載事業 報告書)

秋葉区

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H30数値目標	H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
		予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
総合体育館管理運営	あきはKCKライフパートナーズを指定管理者とし、施設の管理運営を円滑に行った。区内スポーツ団体の利用はもちろんのこと、充実した自主事業の開催を通して、区内のスポーツ振興に貢献した。	実施 57,180	総合体育館利用者数 169,048人 57,180	B	平成30年度の年間利用者数は169,048人と対前年比約115%という結果となった。日曜日の開館時間延長や各種スポーツ教室の充実により、個人利用・専用利用ともに利用者数は増加した。	2	秋葉区内のスポーツ振興の中心的施設として、各種大会を積極的に誘致し、また、指定管理者による充実した自主事業を開催することで、区民の競技力向上や体力づくり・健康寿命の増進に貢献する。	
地区スポーツ振興会補助事業	区内のスポーツ振興会(9振興会、12小学校区)に補助金を交付し、その活動を支援した。	実施 1,170	振興会数:9振興会 (12小学校区分) 1,080	B	各スポーツ振興会は、交付された補助金により、スポーツ教室や大会、レクリエーション活動を実施することで、地区住民の健康増進や親睦を図ることができている。	2	区内のスポーツ・レクリエーション活動の普及発展を図るため、引き続き補助金を交付し、活動を支援していく。	
各種教室開催事業	秋葉区レクリエーション事業を3事業行った。	実施 250	総参加者数:722人 250	B	各種事業により、区民の健康づくりや趣味づくりに貢献した。プチサークル活動については、1教室減となったことで参加者数が減少。	4	委託対象を、参加者数が多く、区のレクリエーション事業の核となっているプチサークル活動にいつ、新津レクリエーション大会、秋葉区健康ウォーキングの3事業に絞って実施した。今後は当該事業について、イベント実施規模の縮小を検討。	
新津カップ開催事業	新潟県少年サッカー5年生大会を開催した(平成30年10月6日・7日)。	実施 386	参加チーム数: 24チーム 0	B	県内のサッカー少年に技術習得の機会とチーム間の交流の場を提供するとともに、2日間で約1,500人も観客の来場や特別番組の放送などにより秋葉区のスポーツ振興と地域の魅力の発信に繋がった。	5	全庁的な事務事業点検の結果、平成30年度で負担金支出による直接的な支援は終了。なお、会場確保等の支援により、大会自体は引き続き開催する。	
少年野球教室開催負担金	少年野球教室を開催した(平成30年12月15日)。	実施 372	参加者数: 区内小学生200人 372	B	プロ野球選手を講師に迎え、毎年開催している。子どもたちが実際にプロ野球選手に触れることで、野球の楽しさを体感できるとともに、投球・捕球の基本を教わり、スキルアップを図ることができた。	2	区内小学生の野球のレベルアップを図るため、引き続き実施していく。	

区ビジョンまちづくり計画(第2次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

南区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H30数値目標	H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
		予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
体育施設の利用促進	南区体育施設館長会議を10回開催し、お互いに情報交換しながら、利用者の利便性の確保や施設の管理運営上の課題などを検討した。 また、南区健康福祉課の事業に協力し、施設利用者の拡大に努めた。	・自主事業の実施による体育施設等利用者数年間 延べ313千人以上	・自主事業の実施による体育施設等利用者数年間 延べ207,349人	D	南区の基幹施設である白根カルチャーセンターで大規模工事が行われ、長期間メインアリーナが利用できなかったため激減。 白根屋内プールや味方体育館の利用者は年々増加している。	2	主要施設の大規模工事が終了し、来年はある程度利用者が回復することが見込まれる。離れていた利用者に戻ってきてもらえるよう、指定管理者と定期的に協議し、利用者起点に立った施設運営を検討していく。	
		241,296	241,296					
健康づくりや世代間交流、地域間交流の推進	健康づくりにつながる各種のスポーツイベントを開催し世代間交流や地域間交流を進め、活動を支援した。  ・南区健康ウォークフェスティバル(H30.9.9) ・第11回南区フロアカーリングオープン大会(H30.6.3) ・第12回南区長杯フロアカーリング大会(H31.3.17) ・第32回白根ハーフマラソン大会(H30.5.13)	・ウォーキング大会の開催参加申込者数160人以上 ・フロアカーリング大会の開催年2回開催 参加申込者数330人以上 ・白根ハーフマラソン大会の開催参加申込者数1,700人以上	・ウォーキング大会の開催参加申込者数164人 ・フロアカーリング大会の開催年2回開催 参加申込者数344人 ・白根ハーフマラソン大会の開催参加申込者数1,900人	B	全ての事業で目標を達成した。健康ウォークは真夏の猛暑により参加者は減少した。カーリングはチラシ、ポスターのレイアウト見直し、区だよりでの特集等、広報活動の充実を図り、参加者が増加した。	2	健康づくりイベントは恒例のイベントとして地域に定着している。今後はウォーキング・カーリングともに、区外の参加者も増やしていけるよう、検討していく。 また、白根ハーフマラソンの募集人数の増加に伴い、救護体制の充実等大会運営の組織強化に努める。	
		2,826	2,826					
スポーツ人口の底辺の拡大	体育協会などと連携して、青少年のスポーツ大会の開催や支援を行い、スポーツ人口の底辺拡大や競技力の向上へつなげた。  第11回南区長杯少年少女親善スポーツ大会 ・野球(H30.8.4, 5) ・ミニバスケットボール(H30.6.30) ・ソフトテニス(H30.8.18,19) ・剣道(H30.10.14)	少年少女親善スポーツ大会の開催参加者数400人以上	少年少女親善スポーツ大会の開催参加者数408人	B	少子化の影響もあり、参加者が低年齢化しているが、目標は達成している。	2	平成20年度から22年度に実施した特色ある区づくり事業(自治協委員提案)から始まった事業であるが、地域の大会として定着している。 引き続き、体育協会加盟団体の協力を仰ぎながら、継続していきたい。	
		373	347					

区ビジョンまちづくり計画(第2次実施計画掲載事業 報告書)

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

西区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
		H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
西区スポーツ応援プロジェクト	区民の継続したスポーツ・運動を推進, サポートし, 一人でも多くの人からスポーツ・運動の楽しさや喜びを感じてもらうとともに, 事業を通じ, 区民の交流の場を創出した。	1,140	948	B	西区CUP(学童軟式野球大会, ミニサッカーフェスタ)はH29年度を最後に開催終了とした。スポーツ教室の開催数は目標を大幅に上回った。幼児から高齢者まで様々な世代を対象に事業を実施した。	2	様々な世代を対象としたスポーツイベントや教室を開催することで区民の交流の場を創出するほか, 健康寿命延伸のため, 健康を意識した事業に取り組む。	
区スポーツ振興関係団体連携事業	区スポーツ振興会・スポーツ推進委員連盟西区協議会等と協力しながら区内のスポーツ振興を図った。	1,620	1,570	B	「角田山登山」などスポーツ推進委員と協力し, 区内のスポーツ振興を図った。	2	補助金額を縮小。引き続きスポーツ推進委員やスポーツ振興会と協力しながら区内のスポーツ振興を図る。	

西蒲区

事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価(第2次評価)		
		H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
スポ柳都にしかん実践事業	各種のスポーツ・レクリエーション団体の活動支援, 各種競技のジュニア育成, 各種講習会の開催支援を目的に, スポーツ関係団体が開催する講習会や教室などへの講師派遣を行った。	645	370	C	レスリング, ホッケー, テニス, ソフトテニスの講習会や出前教室について講師を派遣した。H29年度に4件派遣したサッカー教室が, 他の補助を活用して開催することとなったため, H30年度は目標件数に至らなかった。	2	区内のスポーツ団体等で財政的に脆弱な団体が, 実績のある講師を招いてレベルアップを図る場合や幼稚園・小学校で出前教室を開く場合など, 需要が多い。第3次実施計画からは, 「にしかんスポーツサポート事業」として, 内容を引き継ぎ実施していく。	
	西蒲区のスポーツ振興, 競技人口の拡大を促進するため, 「みて」「体験して」「楽しむ」プロ選手を招聘したスポーツ交流会を開催した。	930	715	D	元Vリーグ選手5名を招き, 指導者向けの講習会及び小学生向けのバレーボール教室を開催した。	2	有名なプロ選手の経験を本人から直接聞き, 指導を受けられる機会であり, スポーツを楽しく, 身近なものとして捉えることができた。第3次実施計画からは, 「にしかんスポーツサポート事業」として, 内容を引き継ぎ実施していく。	
西蒲区スポーツ大会開催等事業	各種のスポーツ・レクリエーション団体の活動支援, 各種のスポーツレクリエーション大会の開催及び開催支援を目的に, スポーツ関係団体が開催する大会や教室に対する助成を行った。	1,222	1,053	C	体育施設使用料をはじめ大会開催にかかる対象経費の1/2を補助。団体の自立性の向上が図られ, 補助金に頼らない団体が出てきたことにより助成件数が減となった。	2	大会開催経費を実績に基づいて補助するもので, スポーツ団体からの需要が多い。大会運営を工夫してもらい, 補助金に頼らない運営が可能になるまで補完する。西蒲区独自の事業でもある。※H31～参加者数に応じて上限区分を設け実施。	
スポーツ振興会事業	スポーツ推進委員の活用を推進するため, 新潟市スポーツ推進委員連盟が実施する事業や地区スポーツ振興会が開催する大会や教室へ参加し運営補助などを行った。	1,350	1,350	C	目標値を若干下回ったが, 従来ある教室や大会のほか, 子ども対象の事業を企画, 開催し好評であった。	2	スポーツ推進委員の活用推進としての目的は達成している。区民から興味を持って参加してもらえるようなスポーツ事業を実施していく。	

指定管理者自主事業等

新潟市開発公社

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
1	各種スポーツ教室の開催・充実	体育施設での子ども水泳教室、親子水泳教室、親子体操教室、子ども体操教室、中高齢者向け健康教室など、子どもの体力向上プログラムから生活習慣病予防や高齢者の健康増進・運動のきっかけづくりを目的とした各種スポーツ教室を開催した。	教室数:1,280教室 延べ参加者236,000人 ※新潟市開発公社主催分	教室数:1,459教室 延べ参加者230,456人 ※新潟市開発公社主催分	C	教室数は増加させたが、参加者増には至らず、既存の参加者が分散して参加している状態。また、大規模工事による教室開催中止やコマ数の減少により、延べ参加者数、収入も目標に届かなかった。また、出席ポイントによる減額も継続して実施したため。	2	割引ポイント制度は、好評であり運動継続のモチベーション向上に役立っている。今後も教室プログラムの見直しなど、より一層魅力のある事業としての充実を図り、市民の健康増進へとつなげたい。	
2	体育施設の託児所の設置 充実	子育て期の保護者の健康増進を支援するため、一部体育施設のスポーツ教室時などに参加者向けに臨時的に開催した。	4施設 18教室 参加者数 50人 ※新潟市開発公社主催分	3施設7教室 参加者数12人 ※新潟市開発公社主催分	D	庭球場での託児所設置は、4年連続でサービス利用者が「0」であった。他施設でも毎月に利用のバラつきがあり、定着が図れなかった。	4	事業は継続するが、最少催行人員を定め、満たない場合は、中止とする。	
3	リレーフルマラソンin新潟市陸上競技場	ランニングを通じた健康増進と自己の記録への挑戦、地域の連帯感や活力の増進など、地域社会の活性化を目的として、仲間や親子と楽しく気軽に参加でき「スポーツの楽しさ」を味わうことができるイベントを開催する。1周400mのトラックをたすきリレーし、チームとして42.195km(105周+195m)を完走する。	40チーム 350名 ※新潟市開発公社主催分	43チーム 374名 ※新潟市開発公社主催分	B	今までどおりの募集方法で開催したため、例年通りの参加者数となった。	2	参加チームの想い入れのある曲をBGMで流しながら開催した。非常に好評であったため、次年度も継続して開催する。また、小学生・高校生の参加もあるのでその年代の参加に力を入れて開催する。	
4	国士舘大学男子新体操部 演技発表会	国内最高レベルの男子新体操演技発表を通じてスポーツの素晴らしさ・楽しさを味わっていただくとともに、普段体育施設を利用されない方にも施設に足を運ぶ機会を設けることでスポーツ振興へ繋げることができた。	観覧者数 1,500人 ※新潟市開発公社主催分	観覧者数 2,236人 ※新潟市開発公社主催分	A	H30年度は29年度と同様に1日2公演で開催したため、観覧者数大幅増となった。入場料も昨年度から若干増額したため、増加した。	4	2年連続で午前・午後と2回公演してきたが、規模を縮小して1回公演で計画。H28年度まで開催していた体操教室も復活して開催できるよう計画する。	
5	車椅子バスケットボール 体験	障がい者スポーツへの興味・関心の向上を目的とし、2020東京パラリンピック競技大会正式種目である車椅子バスケットボールを小学生に体験してもらう。	小学4～6年生 40名 ※新潟市開発公社主催分	小学4～6年生 31名 ※新潟市開発公社主催分	C	地域スポーツ少年団の大会と日程が重なり、参加チームが減少したため。	2	車椅子に乗ること自体が初めての経験となる参加者もいて、障がい者への理解に繋がったと考える。より幅広く普及を図るべく、今後も別施設で開催を計画していく。	
6	体力測定&メニュー作成	筋力・柔軟性・持久力などを測定し評価するとともに、その結果から個人に応じた運動プログラムを作成し、提供した。	8施設 400人 ※新潟市開発公社主催分	8施設462人 ※新潟市開発公社主催分	A	亀田総合体育館の体力測定人数が233名と他施設が2桁の人数であるのに対して桁違いの利用者数であった。亀田総合体育館は、無料でコンピューターによるメニュー作成ができ、毎日の血圧や体重などを記録できるシステムを導入している。	1	無料で測定評価及びトレーニングメニューを作成することで体育施設利用の促進へと繋げ、市民の健康増進の一助とする。2019年度から6施設で測定システムを導入し、以前のデータと比較することが簡単にできるようにし、利用者のモチベーション向上に寄与する。	

指定管理者自主事業等

新潟市開発公社

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
7	スポーツメディカル カウンセリング	体育施設において、スポーツによる怪我や痛み等の悩みに専門の医師、理学療法士が問診・指導を行う。	1施設 20人 ※新潟市開発公社主催分  無料	1施設20人 ※新潟市開発公社主催分  無料	B	新潟市が直営で行っていたスポーツ医事相談事業を引き継いだもの。 スポーツ専門医や理学療法士による問診・指導を無料で得られることで好評を得ている。	2	スポーツ専門医や理学療法士による問診・指導を無料で受けられる機会を通じ、個人が生涯スポーツを継続できるよう支援を行う。	
8	卓球大会	各施設開催の卓球教室参加者を対象に教室で磨いた技術を試す機会を提供し、より一層の利用促進を図るとともに、卓球教室参加者が一同に集い、参加者同士の交流を深め、卓球の普及振興と健康増進に寄与することを目的とする。	1施設 80人 ※新潟市開発公社主催分  60	1施設148人 ※新潟市開発公社主催分  93	A	4施設で卓球教室を開催しており、それぞれのレベルの確認、他施設の卓球愛好者との交流を求めて、多くの方が参加したため。さらに、好評のため、年2回開催した。	1	H30年度の計画では、年3回予定していたが、日程が大会と重なり開催できなかった。2019年度は、3回開催予定。	
9	着衣泳講習会	少しでも水難事故による犠牲者が減少するよう自分の身を守る「着衣泳」を広く市民に周知し、体験してもらう。	3施設 50人 ※新潟市開発公社主催分  無料	2施設44人 ※新潟市開発公社主催分  無料	C	山の下海浜公園プールが申込者少数のため、開催中止となった。	2	水辺レジャーにおける安全管理を学ぶことができ、水難事故防止を啓発する数少ない機会であるため、2019年度も継続して開催する。	
10	水球体験会	オリンピック種目である水球をリオ五輪出場選手指導のもと体験することにより、東京五輪に向けて、水球競技の普及・振興を図る。また、水泳、プールについて今まで以上に関心を深め、公共プール施設に足を運んでもらう一助とする。	1施設 20人 ※新潟市開発公社主催分  無料	1施設21人 ※新潟市開発公社主催分  無料	B	小学生向けスポーツ教室時にイベントPRを実施し、一般参加者増につながったため。 (昨年度参加した中学生チームは定期試験のため不参加)	2	新潟市で水球を目の当たりにできる機会は、年に1度この機会しかないため、今後も継続して、水球の普及、振興さらに東京オリンピックに向けた機運醸成を目的として開催していく。	
11	フラダンス発表会	各施設開催のフラダンス教室参加者を対象に年に1度発表の場を提供し、日ごろの成果を披露してもらう。教室参加者のモチベーション向上につながり、運動の継続につながる。また、一般の方にも観覧してもらうことで「見る」ことから「動く」ことへの行動の変容も期待できる。	1施設 150人 ※新潟市開発公社主催分  150	1施設158人 ※新潟市開発公社主催分  170	B	第5回ということもあり、教室参加者に発表会が定着している。お客様同士で発表会参加への働きかけもあり、継続参加者が多くなっており、安定して参加者の確保がされている。	2	開催時間から割り返すと現在の参加チーム数が限界となるため、現状維持での開催とする。	

指定管理者自主事業等

ハピスカとよさか&アイビス技建共同事業体

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
12	総合型地域スポーツクラブ事業の質的な拡充	体育館, 遊水館で実施した各種スポーツ教室において参加者数が増えた	教室数: 75 延べ参加者38,000人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	教室数: 73 延べ参加 37,563人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	C	工事休館があり, 開催できなかった教室がある。	2	現状で十分目標を達成できている。(平成29年度目標 教室数73, 延参加者37,500)	
13	各種大会の開催	ハピスカ主催の北区の大会を開催し, 多数の参加者を得ることができた	エントリー数 少年野球大会: 100人 ミニバス大会: 100人 グラウンドゴルフ大会: 100人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	エントリー数 少年野球: 開催なし ミニバス大会: 150人 グラウンドゴルフ大会: 136人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	A	少年野球は, チームが減少していることから, 平成29年度を最後に開催しないこととした。グラウンドゴルフの人気	4	ミニバスのチーム数が減少しているため, 今後の方向性を一考する	
14	体育施設の利用講習会・体験会	トレーニング講習会, プール利用講習会を実施したが, 目標値を達成できなかった	対象者 225人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	対象者 93人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	D	利用者へのアピールが不足	3	トレーニングマシン等を更新し, トレーニング室利用者を増やす。	
15	ウォーキングセミナー	北区巡りウォーク, ウォーキング講習会の実施及び葛塚市参加し, 多数の参加者を得ることができた	対象者 60人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	対象者 95人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	A	葛塚市での万歩計を使ったイベントが好評	2	現状で十分目標達成できている	
16	学校体育・部活動のサポート	かけっこ塾	対象者 100人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	対象者 65人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	D	秋に開催した教室の参加者が少なかった。	1	学校体育に沿ったプログラムを提供していく。	
17	体力測定会	年2回無料で実施したが目標値を達成できなかった。	対象者 60人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	対象者 37人 ※ハピスカとよさか & アイビス技建共同事業体主催分	D	教室参加者や個人利用者への声掛けが不足。	1	利用者への啓蒙活動, 広告宣伝の強化	

指定管理者自主事業等

新潟パティネレジャー

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
18	氷上スポーツ教室	アイススケート・カーリングといった、氷上スポーツの普及と生涯スポーツとしての健康促進に貢献することを事業理念とします。	延べ参加者数 6,100人 ※新潟パティネレジャー主催分	延べ参加者数 6,083人 ※新潟パティネレジャー主催分	C	本年度は、昨年度の平昌オリンピックの影響により増加した新規参加者の継続率が良く、人数においては約100%の達成度となりました。	2	引続き当施設の教室を窓口とし、氷上スポーツの普及と選手育成に努めます。	

指定管理者自主事業等

NKS・OZスポーツグループ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
19	新津地域学園体育施設 小学生対象硬式テニス スクール	毎週土曜日 10時30分～11時50分(80分) 小学生を対象として前期同様にテニスの楽しさを伝える取組とした。 今期は参加人数が少なかったが、コーチとの密なコミュニケーションが取れつつ、技術面での向上が出来たため、参加者の満足度は高かった。	開催数:52回 延べ参加者:620人 ※NKS・OZスポーツ グループ 主催分	開催数:48回 延べ参加者:123人 ※NKS・OZスポーツ グループ 主催分	D	スクール募集の時期がずれたため、人数の確保が難しい状況だった。	7	次期指定管理者の継続事業となったため。	
20	新津地域学園体育施設 硬式テニススクール	毎週木曜日 19時30分～20時50分(80分) 初心者や基本的な技術を覚えたい人を対象とした。 経験者の方でもフォーム等を治す目的での短期入会があり、ある程度は取り組みに沿った結果となった。	開催数:48回 延べ参加者:570人 ※NKS・OZスポーツ グループ 主催分	開催数:46回 延べ参加者:171人 ※NKS・OZスポーツ グループ 主催分	D	今期はスポットでの参加や、期の途中より入会があったため、参加人数は前期より増となった。	7	次期指定管理者の継続事業となったため。	



指定管理者自主事業等

あきはKCKライフパートナーズ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標	H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
21	あたま・からだ・いきいき体操	2017年6月より月1回自主事業として無料の高齢者向け体操教室を1ヶ月に1回実施を継続中。半数ほどの方は固定しております。毎回、脳トレ・筋トレ等毎回内容を変化させて飽きのないよう実施いたしました。	延べ参加者数 100人 (11月より各月1回:20名) ※あきはKCKライフパートナーズ主催分	延べ参加者数 122人 (4月より各月1回:12名) ※あきはKCKライフパートナーズ主催分	B	延べ人数は達成しましたが、1回平均人数は、昨年同様に冬場の落ち込みにより目標は達成できませんでした。	2	幅広い年齢層のご利用者への運動の機会を高め、武道館の稼働率を上げるためじっしいたします。	
22	各種スポーツ教室実施	お子様のダンス・バレエ教室と児童体育教室、大人むけの卓球・フラ・ヨガクラスを教室形式で実施しました。	延べ開催教室数 420クラス 延べ参加者数 6,500人 ※あきはKCKライフパートナーズ主催分	延べ開催教室数 546クラス 延べ参加者数 8,337人 ※あきはKCKライフパートナーズ主催分	A	児童体育スクールを新規実施したこと、ヨガの短期スクール実施で630人増加し目標を達成できました。	2	ご好評により引き続き継続実施いたします。	

指定管理者自主事業等

秋葉区スポーツフィールド運営グループ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
23	少年野球大会(新人大会)	小学校5年生以下で編成する新チームによる少年野球大会を開催することで、5年生などの主体性を育み、スポーツを通じて子どもたちの心身の健全育成と相互の親睦を図る。	開催回数:1回 エントリーチーム数: 8チーム ※秋葉区スポーツ フィールド 運営グループ主催分 135	開催回数:1回 エントリーチーム数: 6チーム ※秋葉区スポーツ フィールド 運営グループ主催分 105	C	秋葉区のチーム数の減少と他大会と重なったため参加チームが6と減少し、天候にも恵まれなかったが、なんとか予定通りの日程で大会を行うことができた。	2	日数(2日間)と試合数が6~7チームのトーナメント方式で行うのに丁度良い大会となっている。	
24	ニュースポーツ振興交流会	①H30.7小須戸矢代田小学校3学年を対象とした、アジッタ(玉入れ)とスリッパ卓球を主体としたスポーツで親子で一緒に参加していただき交流を深めてもらうことと小須戸体育館のPRに努めた。②H31.3 小須戸地区スポーツ推進委員と合同でスリッパ卓球大会の開催 市内及び市外から106名の参加を得て体育館にて交流大会をすることができた。(実行委員含め130名)	開催回数:3回 エントリー数:200人 (6コース設定) ※秋葉区スポーツ フィールド 運営グループ主催分 120	開催回数:2回 エントリー数:206人 (コース設定) ※秋葉区スポーツ フィールド 運営グループ主催分 166	B	スリッパ卓球の集客が減ってきていてPR方法を検討する必要がある。小学校も生徒数が減ってきている。	1	現行の活動は継続しつつ、新規に小須戸地区スポーツ振興会がターゲットバードゴルフを進めていきたいとの話があり協力していく形でバックアップをしていく予定である。	
25	ノルディックウォーキングセミナー	5月29日、6月12日、7月17日の3日間を設定して参加費200円/1人ポール貸出 500円/1組で設定をして募集をかけたが全然人が集まらなかった。(PR方法は、近隣のコミ協にパンフレット配布、区だより、大人プラス、こじじいウイークリ等に掲載をお願いしたが駄目であった。	開催回数:1回 エントリー数:30人 ※秋葉区スポーツ フィールド 運営グループ主催分	開催回数:3回 エントリー数:0人 ※秋葉区スポーツ フィールド 運営グループ主催分 0	D	参加費、ポールの貸出設定価格が悪かったのかと考えている。	3	平成31年度 無料体験会という形での募集で集まり具合を見たいと思います。それでも集客が出来ない場合はこの地区では無理と判断したい。	

指定管理者自主事業等

新潟ビルサービス

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
26	各種スポーツ教室の開催・充実	体育施設での小学生運動教室(12教室),小学生水泳教室(6教室),中高齢者向け健康教室(8教室),大人向けのヨガ教室(13教室)など,子どもの体力向上プログラムから生活習慣病予防や高齢者の健康増進・運動のきっかけづくりを目的とした健康教室などを開催した。	延べ教室数:32教室 延べ参加者:760人 ※新潟ビルサービス主催分	延べ教室数: 39教室 延べ参加者: 838人 ※新潟ビルサービス主催分	A	参加者のアンケートなどから,開催時間・内容・回数などを工夫・見直し,改善を行った。その結果,定員に満たない教室でもそれぞれ人数は増えている。また,新しい教室について,無料体験などを実施しながら,検討を進めている。	7	全体としてはもう少し「充実」したいと考えている。 参加者のアンケートや講師の意見などを基に常に内容の見直しや工夫を行っている。その上で,「現状維持」又は「充実」させ,また新しい教室の実施も検討している。	

指定管理者自主事業等

南区スポーツフィールド

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価				
			H30数値目標		H30実績		達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因					
27	南区スポーツフィールドカップ	地元南区の子供たちにスポーツを通じて心身の健全育成を図り、相互の親睦と白根野球場に親しみを持ってもらえるように少年野球大会を開催している。参加した子供たちは日ごろの練習の成果を発揮し、盛り上がりを見せていて、参加者からは継続して行なってほしいと要望が上がっている。	エントリー数 7チーム 140人 ※南区スポーツフィールド	エントリー数 6チーム 87人 ※南区スポーツフィールド	D	現在南区内にある少年野球チーム7チーム中6チームがエントリー、1チームのみ登録選手が少なく大会にエントリーができなかった。	2	大会に関するアンケートを行っており、アンケート結果をもとに運営を行っている。更に少年野球チームに所属する子供の人数が減っているため現状維持。			
28	少年野球教室	社会人硬式野球部による少年野球教室を行い、野球場の周知と、野球人口の増加、子供たちに野球の魅力を伝え、技術向上を図る。参加者は日頃の練習と違う環境で、真剣に練習していた。野球教室を定期的に行なってほしいなどの要望も上がっている。	参加者数 100人 ※南区スポーツフィールド 運営グループ主催分	参加者数 60人 ※南区スポーツフィールド 運営グループ主催分	D	(参加した子供のみ実績とする) 前年度より参加者は増加したが、目標値には到達しなかった。	2	地元野球連盟や少年野球チームより野球教室の開催を希望されている。			
29	かけっこ教室	スポーツの普及と子供たちの健全育成に寄与することを目的として、走るための基本姿勢、走り方の指導を行い、走り方を実践してもらい実際に早くなったと喜ぶ声が上がった。地元農家に協力いただき、参加者には南区特産の梨をお配りして地域密着の教室となった。	参加者数 30人 ※南区スポーツフィールド 運営グループ主催分	参加者数 0人(開催中止) ※南区スポーツフィールド 運営グループ主催分	D	教室開催日の天候が悪く開催自体が出来なかった。	2	参加者からの評判がよく、継続して行ってほしいと要望がある。			
30	ノルディックウォーキング教室	ポールを使った簡単な歩行運動を野球場の周辺や多目的広場にて行う。ウォーキング時よりも負担が軽い。膝や腰の負担も軽減され年配の方や体力に自信のない方も積極的に参加できるため、健康増進の機会にしたかったが参加者が集まらなかった。	参加者数 30人 ※南区スポーツフィールド 運営グループ主催分	参加者数 0人 ※南区スポーツフィールド 運営グループ主催分	D	参加者が集まらず、教室を開催することが出来なかった。	3	ノルディックウォーキング以外にも、年配の方や体力に自信のない方が参加しやすい教室を考えたい。			

指定管理者自主事業等

みどりと森運動公園体育施設運営グループ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおりに達成  
 C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
 E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
 4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
 7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
31	スポーツ(セミナー)事業	ノルディックウォーキングを通じて健康増進を支援することを目的として年に数回実施します。基本動作からレベルアップまで正しい技術を習得いただくため有資格者が指導します。	開催回数:年4回 延べ参加人数:60人 ※みどりと森運動公園体育施設運営グループ主催分 0	開催回数:年8回 延べ参加人数:90人 ※みどりと森運動公園体育施設運営グループ主催分 0	B	開催予定日全て天気に恵まれ開催できた。	2	施設内の園路を有効に生かせる内容であり参加者から開催を要望されている。	
32	スポーツ(地域活動)事業	・地域の競技団体と連携しナイターリーグを開催します。また、地元中学生を対象に野球教室を実施します。 ・区内の公民館、保育園、子育て支援団体を対象に親子運動遊び教室を区内各所で実施します。	開催回数:年20回 延べ参加人数:500人 ※みどりと森運動公園体育施設運営グループ主催分 300	開催回数:年34回 延べ参加人数:1,215人 ※みどりと森運動公園体育施設運営グループ主催分 300	A	・ナイターリーグ・野球教室共に天気に恵まれ予定通り開催できた。 ・公民館の他に児童館からもご依頼をいただき予定日数を上回り実施した。	1	・平日のナイター時間を有効に活用しリーグ大会を開催した。また管理施設2球場で中学生に硬球に慣れる機会を提供できている。 ・昨年度訪問させていただいた公民館から継続してご依頼いただいた他、児童館からも追加のご依頼をいただいている。	

指定管理者自主事業等

潟東スポーツフィールド運営グループ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標	H30実績	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
			予算額(単位:千円)	決算額(単位:千円)					
33	ヒップホップダンス教室	平成28年度4月より開始の事業。ヒップホップダンスを通じて、子供たちに体を動かす楽しさやダンスの上達による達成感を体感してもらうことができた。	参加者数 15人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  425	参加者数 13.7人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  506	C	(数値目標及び実績値は、1回あたりの平均参加者数) H29年度実績と比べて参加者が増加し、継続的な参加があった為。	2	教室自体は現状維持のままだが、ヒップホップダンス教室の周知を図り、参加者の増加と内容充実に努める。	
34	バスケットボールスクール	平成27年度8月より始動している事業。キッズクラスとチャレンジクラスがあり、毎週楽しく練習を行っている。本事業には検定もあり、子供たちが目標を持って参加している。	参加者数 15人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  -110	参加者数 14.8人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  -110	C	(数値目標及び実績値は、1回あたりの平均参加者数) H29年度実績と比べて参加者は増加しなかったが、継続的な参加があった為。	2	参加者の減少を防ぎ、新規参加者を獲得するために、バスケットボールスクールの周知を図る。また、内容の充実に努める。	
35	エンジョイフットサル	平成29年度4月より開催の新事業。定期的な参加者が来るようになり、大人から子供までフットサルを楽しむ姿を見ることができた。新年度に向けて、さらなる参加者の増加とエンジョイフットサルの認知度を高めていきたい。	参加者数 15人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  90	参加者数 12.3人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  -4	C	(数値目標及び実績値は、1回あたりの平均参加者数) 今後はさらなる参加者の増加に繋がる様に事業の周知と内容の充実に努める。	2	教室自体は現状維持のままだが、エンジョイフットサルの周知を図り、参加者の増加と内容充実に努める。	
36	潟東小学校夏休み無料開放	潟東小学校の児童へ向けた事業。体を動かすことの楽しさを体感してもらい、健康維持や体力向上のきっかけづくりとして楽しみながら運動を行った。また、潟東体育館のスポーツ施設としての利用者数向上を目指し、気軽に利用できる施設としての周知を行った。	参加者数 40人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  -7	参加者数 14.3人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分  -7	D	(数値目標及び実績値は、1回あたりの平均参加者数) 多くの児童が参加していたが、さらなる参加者の増加に繋がるよう努める。	2	無料開放事業は継続して行い、気軽に利用できる施設の周知と地域スポーツへの意識向上を行う。	

指定管理者自主事業等

潟東スポーツフィールド運営グループ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
37	潟東どろんこサッカー	普段では体験できない、泥の中で行うサッカーイベント。大人から子供まで笑顔でイベントを楽しんでいた。来年度以降も多くの方から参加してもらえるよう模索していきたい。	エントリー数 10チーム 70人 ※潟東スポーツフィールド	エントリー数 2チーム 25人 ※潟東スポーツフィールド	D	目標としていた参加者数を大きく下回ったため。天候により開催自体が危ぶまれる事態となってしまった。	2	イベント自体は好評の為、今後も参加者が満足できるイベントとして維持していく。	
38	スマイルスポーツプロジェクト	潟東小学校PTA行事にて講師派遣。親子で出来る多種多様なメニューを用意したことで、児童も保護者も怪我なく楽しんで頂けた。	参加者数 100人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分	参加者数 0人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分	E	計画をしていたが、実際の開催までいかずに事業を行わなかった。	5	潟東体育館の改修工事により、6月末で指定管理を終了する為。	
39	お花でにこにこプロジェクト	サルビアの花を植え、サルビアサッカー場でサッカー教室としてレクリエーションを行う。参加者の園児たちは1つ1つ丁寧にサルビアを植えていた。サッカー教室でも元気よく楽しんでいた。	参加者数 40人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分	参加者数 35人 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分	C	目標としていた参加者数にわずかながらとどかなかったため。	2	イベント自体が好評の為、今後も参加者が満足できるイベントとして維持していく。	
40	サルビアフェスティバル	昨年度の反省を生かし、開催日数を減らし、多くのチームが参加しやすい日程に調整した結果、予定していたよりも多くのチームから参加して頂いた。また、県外からの参加もあり好評だった。熱中症対策のミスト設置も効果があり、イベント中の熱中症はなかった。	エントリー数 30チーム 600名 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分	エントリー数 21チーム 341名 ※潟東スポーツフィールド 運営グループ主催分	D	目標としていた参加者数には届かなかったが、イベント自体は好評。	2	改善点が参加者増加へ繋がり、イベント自体も好評の為、今後も参加者が満足できるイベントとして維持していく。	
41	プリマヴェーラフェスティバル	積雪が残る中での開催となり、キャンセルのチームが多くあった。しかしながら、参加したチームからは普段できない雪上でのサッカーも楽しかったなどの感想を頂いた。サッカー場周辺での出店が保護者や家族の方に好評であった。地域のコミュニティとしてもサッカー場が貢献できた。	エントリー数 100チーム 1,500人 ※潟東スポーツフィールド	エントリー数 96チーム 1,200人 ※潟東スポーツフィールド	C	目標としていた参加者数には届かなかったが、地域スポーツの活性化に貢献できた。	2	天候の影響が大きく、不安はあったが、地域の交流イベントとしても貢献できた為、今後も参加者が満足できるイベントとして維持していく。	

指定管理者自主事業等

西蒲スポーツ振興グループ運営グループ

A・・・指標を上回って達成 B・・・指標とおり達成  
C・・・指標を少し下回った D・・・指標を大きく下回った  
E・・・未着手

1・・・充実 2・・・現状維持 3・・・内容見直し  
4・・・縮小 5・・・廃止・休止 6・・・完了  
7・・・その他

No.	事業名	事業内容(取り組みの結果)	自己評価				新潟市スポーツ推進審議会(スポ柳都にいがたプラン推進会議)評価		
			H30数値目標 予算額(単位:千円)	H30実績 決算額(単位:千円)	達成度	理由・原因	事業の方向	理由・原因	取組状況評価
42	スポーツ(スクール・セミナー)事業	3ヶ月を1期(1部のプログラムは不定期)として年間を4期に分け、主に活動地域の人々に対して、スポーツや健康づくり運動を実践するための機会と最新のエビデンスに基づいた指導を提供し、子どもから高齢者までの各ライフステージに応じたスクールを開催した。	回数:1,478コマ以上 延べ参加者:14,624人以上 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	回数:1,643コマ 延べ参加者:18,446人 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	A	サービス活動の基盤となる「SPOFIT新潟西蒲スポーツクラブ(西蒲SC)」の更なる充実と最新のエビデンスに基づいた指導を提供したため。	2	事業コマ等の充実を図ったことにより、新規事業を開設するコマについてほぼ残っていませんが、最新のエビデンスに基づいた指導を提供予定。	
			9,400	13,375					
43	スポーツ(地域活動)事業	地域の団体と連携し、スポーツやフィットネス関連のイベントおよびセミナーを西川総合体育館および西蒲区内各所で実施した。	回数:47コマ以上 延べ参加者:817人以上 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	回数:50コマ 延べ参加者:575人 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	B	地域の団体と連携し、スポーツやフィットネス関連のイベントおよびセミナーを西川総合体育館および西蒲区内各所で実施したため。	1	更にグループの持つコンテンツを最大限に活かし、地域連携活動の充実を積極的に図る予定のため。	
			0	0					
44	スポーツ(トレーニングルーム指導)事業	効率良く継続的にトレーニングをおこなっていただくために、スタッフ(有資格者)によるマシンの取扱い・アドバイスを無料で実施した。	回数:1,304コマ以上 延べ参加者:1,466人以上 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	回数:1,695コマ 延べ参加者:1,871人 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	A	指導スキルを高めトレーニングルーム利用者に対して無料で指導を実施したため。	1	指導スキルを更に高め、広報誌等で施設情報等を積極的にPR予定のため。	
			0	0					
45	ダンス教室	シニア対象・子ども対象のダンス教室をそれぞれ実施する。ダンスの楽しさを知ってもらうとともに、体力向上や健康促進に貢献する。昨年度からクラス分けを改変して実施。シニア対象のクラスではダンスエクササイズクラスのクラスを行い、楽しく体を動かした。子ども対象のクラスでは、初級クラス(幼児～小学校低学年向け)と、上級クラス(小学3年生以上)を開催した。上級クラスでは、定期的に発表会にも参加するようになり、子どもたちのやる気アップに繋がった。	延べ参加者数:1,500名(計4クラス) ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	延べ参加者数:725名(計3クラス) ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	D	上級クラスは目標値に達し、シニアダンスエクササイズクラスは目標値に対し60%。初級クラスは、目標値に対し50%の達成率だった。その結果、全体の達成率は60%となった。	5	担当インストラクターが退職するため。次年度は内容を一新して教室を開催していく。	
			450	382					
46	角田山一周ハーフマラソン大会	角田山のふもとを一周するハーフマラソン。豊かな自然の中をランニングすることで、市民の体力向上や健康増進につなげる。また、地域住民からボランティアを募り、さらに西蒲区の特徴を随所に活かすことでスポーツを通じた地域活性化を図る。当日はあいにくの雨模様だったが、制限時間を3時間と長めに設定することで、ランナーのほぼ全員が完走することができた。沿道の地域住民から温かい声援もあり、ランナーの励みになった。また、地元企業や、420名の市民ボランティアの協力によって、地域一体となって大会を運営できた。	エントリー数 700人 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	エントリー数 620人 ※西蒲スポーツ振興グループ主催分	C	目標エントリー数には達しなかったため。大会は、ランナーがほぼ全員完走し、「競技スポーツ」、「健康スポーツ」どちらも実現することができた。また、大会運営については、地元の方からの協力も大きい。地域一体の運営により、「支えるスポーツ」も実現できた。	2	「見るスポーツ」の点で、沿道では地域住民の応援があり、大会を盛り上げている半面、会場である城山運動公園内では応援者が少ないため、改善していく。また、雨天時もスムーズに運営できる体制をとる。	
			6,700	5,800					